



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 1. 本校における ESD 活動の位置づけ

(1) 各学年での主な活動

##### 【第1学年】

年間を通じて週1時間、総合的な学習の時間において、ESDを中心とした学習活動を実施。人権研修では、国際交流を念頭に、異文化理解を中心に国立民族学博物館と連携し研究員の方から講義を受け、博物館内の資料検索、閲覧を行った。また、修学旅行先である沖縄・八重山諸島について、歴史・文化・平和など、クラス内をいくつかのグループに分けて、テーマを決めて調べ発表する活動を行った。英語科の授業においては、調べた事を英語で報告する活動を行った。家庭科では、フェア・トレードの授業で、実際にフェア・トレードの食品を購入し、調理・試食することで生活の中での学びを行った。

##### 【第2学年】

社会と情報の時間(週2時間)を利用して、NIEとESDを意識した学習活動を実施した。修学旅行先である沖縄・八重山諸島に関して、各クラスを8グループに分けて、新聞を作るコンテストを実施し、修学旅行後は報告をかねた学校ホームページ作成コンテストを実施した。また、年度末には、政治・福祉・歴史・国際・文化など時事問題を新聞からテーマを決定し、ニュース解説番組を作る活動を行った。英語科の授業では、各自が選んだテーマに沿って作成した英文を、冊子にした。

(2) 学校全体での主な活動

##### 【ESDパスポート事業】

ESDパスポートを生徒手帳に組み込み、市内清掃・東北支援活動・国際交流・ボランティア活動など、生徒の個々のESD活動を意識づける取り組みを始めた。今年度は特に街頭清掃ボランティア活動や、エコキャップ運動などと連携させた。

##### 【国際交流・異文化理解・ボランティア活動】

姉妹校である米国ミネソタ州 サウスウエスト高校に生徒12名、教員2名が訪問し、ホームステイや授業を受けるなど、共に学ぶ活動を行った。また、同じくサウスウエスト高校からも生徒・教員を受け入れて、本校生徒が京都観光の案内やホームステイ・授業をともに受けることで、交流を深めた。また、姉妹都市である、ミネアポリス市から、市議団による授業やクラブの視察を受け入れ、学校だけでなく都市間の連携も深めている。

韓国城南市で行われた、アジアユースカンファレンス(日本・中国・韓国・フィリピン・マレーシアの5か国計100名の高校・大学生が参加)に高校生2名を日本代表として派遣した。生徒は教育・政策・人権・遊びと文化の4つの分科会に分かれ、テーマ別に英語で討論し発表を行った。

### 【東北支援活動】

- ・震災後4年続けて市内の他のユネスコスクールと共同して、東北被災地（気仙沼）を訪問し、復興ボランティアおよび、現地のユネスコスクールである気仙沼高校と交流を実施。2015年度は生徒8名、教員1名を派遣した。
- ・文化祭にて、東北被災地の現状や大阪における防災・減災に関するパネル展示
- ・野球部を中心に、宮城県の高校生を大阪に招待する活動を、他のユネスコスクール等4校および地元自治体と企画・実施。ホームステイと交流戦等を行う中で、被災地復興だけでなく、地元大阪での東北支援活動を継続する契機としている。

### 【ユネスコ協会活動への参加】

本校では、ユネスコ部が存在しないため、企画ごとに募集を行っています。

- ・大阪ユネスコ協会・日本ユネスコ協会主催の、高校生の主張コンクールに生徒2名が参加。日本ユネスコ協会主催の作文コンクールに1名が参加した。
- ・ワンワールドフェスティバルにおける大阪ユネスコ協会主催のESD活動報告会の報告だけでなく、企画・運営に生徒7名携わった。
- ・大阪府ユネスコ連絡協議会主催の講演会・シンポジウムに、本校生徒がシンポジニストとして参加し、高校生の立場から東北支援活動について述べた。

### 【その他】

中学生に理科に実験を通して親しみをもってもらうため学区内の中学生を対象に、高校生が主体となって企画・運営しているチャレンジ理科教室（中学生84名参加）や、つくばの高エネルギー加速器研究所・JAXA・筑波大と連携して、つくばへ生徒11名教員2名を派遣し、研修や見学を行った。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（夏期休業中・土曜・日曜）